

平成29年6月1日(木)



つつじが丘小学校  
学校だより

つつじ

昭島市立つつじが丘小学校長 上田 祥市



## 心を添えて

副校長 森本 弘子

桜の淡いピンク、つつじの鮮やかなピンクに彩られたつつじが丘小の風景が、いつの間にか深い緑でいっぱいの初夏の風景に変わりました。

子供たちは休み時間に校庭で思いっきり遊び、満足げな顔で汗びしょりになって教室に戻ってきます。子供たちの元気な姿が学校の宝です。

5月18日(木)3・4年生と一緒に多摩動物公園に遠足に行ってきました。この日は、朝から3・4年生合同の縦割り班で活動します。リーダーとなった4年生の行動に、私は何度も感心しました。昭島駅に行くまでの道のり、私の前を歩いている班の4年生が、道を曲がる度に「3年生こっちに来て」と車道側に自分たちの身を置きながら声をかけていたのです。上級学年として3年生のことを『みる』のだという姿を微笑ましく眺めながら歩きました。さらにうれしかったことは、電車の中のマナーです。ほかの乗客の方々のことを意識して、みんな静かに乗っていました。多摩動物公園内での班別自由行動の時にも3年生をリードして楽しく見学できました。3年生の方も、4年生に協力し班全員で楽しもうという気持ちで行動していました。

1・2年生の学校探検、羽村市動物公園でも2年生がお兄さん・お姉さんらしく逞しさを発揮し、1年生の手をつなぎ優しく連れていく姿がありました。ほんの2か月前まで1年生だったのに、その成長ぶりには驚かされます。

だれかのために自分が役に立つ経験や相手を思いやりながら行動する経験の積み重ねで、子供たちはより良い人間関係の作り方を学びます。心の持ち様が行動を変え、行動から相手に心が通じていくのだと思います。

「行動から心が伝わる」ことを私自身が強く感じたことがありました。先日の朝廊下を歩いていると、私の前を歩いていた1年生の男の子が、私の前で立ち止まり、後ろを向いて両手をそろえて「おはようございます。」と言って深々とお辞儀をしてくれました。急ぎ足で歩いていた私は、思わず足を止めて慌ててその子の挨拶に応えました。挨拶をするその子の姿を見た時、あわただしく動いていた時間の流れがふっと止まった感じがし、はっとしました。自分の歩きを止め、後ろを向いてきちんとした挨拶。そこには、男の子の朝の挨拶をしようという純粋な心が添えられていたのです。私はさっきまで交わっていた自分の挨拶が何だか恥ずかしくなっていました。

心を添えられた挨拶で一日が始まると、それだけで幸せな気分になります。忙しさについて忘れていた心を添えることの大切さを、その子に思い出させてもらいました。

私たちは、常にたくさんの人との関わりの中で生活しています。挨拶をする時だけではなく、話をする時、お礼を伝える時、子供たちも私たち大人も、みんなが、「心を添える」ということをちょっと意識して生活してみると、人との関係がより良いものになっていくのではないのでしょうか。

今月は、「ふれあい月間」です。子供たちにとって学校は、人との関わりを学ぶ大切な場です。自分や周りの人を大切にするあたたかな心あふれる学校づくりを目指し、教職員一同全力で指導をしています。

